



“植物のチカラ”

2019

日清オイリオグループ
コーポレートレポート

CORPORATE REPORT

日清オイリオグループ株式会社

“植物のチカラ”[®]

すべては、“植物のチカラ”[®]から。

日清オイリオグループのコーポレートステートメントは

“植物のチカラ”。

わたしたちの事業は、植物資源の可能性を最大限に引き出し、
人々の生活をさらに豊かにすることです。

植物がもつ3つのチカラ、

「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」は、

人や事業を動かすチカラでもあるのです。

わたしたちの行動と事業のベースは、常に“植物のチカラ”です。

経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

コアプロミス

日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造いたします。
そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あつたらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

目次

- P4 日清オイリオグループの事業とあゆみ
- P6 中期経営計画
「OilliO Value Up 2020」と2018年度実績
- P8 トップメッセージ

特集

- P12 新たな価値を創造し、お届けするために
- P14 お客様のさまざまなニーズを具現化する《商品開発》
- P16 “植物のチカラ[®]”を最大限に《研究・開発》
- P18 安全・安心を基盤に安定供給を《生産・物流》

日清オイリオグループのESG

- P20 日清オイリオグループのESG
- P22 地球環境保全への取り組み
- P24 社会課題への取り組み・社会貢献活動
- P28 人材の育成と活用
- P30 コーポレート・ガバナンス
- P35 第三者意見

DATA

- P36 財務データ(連結)
- P38 非財務(CSR)データ
- P39 会社概要

- P40 おいしさと健康の源 植物油

編集方針

「コーポレートレポート」は、当社グループの概要や中期経営計画、財務情報や企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)として1年間取り組んだ活動について、特にステークホルダーの皆様にお伝えしたい内容を掲載しています。また、当社グループの事業活動に関する定量データを3年分掲載した「CSRデータ集」や、その他のCSR関連情報は当社のホームページで開示しています。本冊子とあわせてご覧ください。

報告対象範囲

対象期間:2018年4月1日~2019年3月31日
一部に当該期間外の取り組みが含まれています。
組織・役職名は2019年6月27日現在のものを記載しています。

対象範囲:日清オイリオグループ株式会社と連結子会社(国内・海外)を含むグループ全体を対象としています。ただし、環境パフォーマンスデータと一部の取り組みについては、日清オイリオグループ株式会社単体を対象としています(報告書中での表記について、日清オイリオグループ株式会社単体を「当社」、日清オイリオグループ株式会社と連結子会社[国内・海外]を含むグループ全体を「当社グループ」としています)。

日清オイリオグループの事業と

▶ 油脂・油糧および加工食品事業

売上高 **2,385億円**



- ▶ ホームユース(食用油、ドレッシング)
- ▶ 業務用食用油 ▶ 加工用油脂 ▶ 油粕 ▶ 食品大豆
- ▶ ウェルネス食品
(美容・運動サポート食品、高齢者・介護食品、治療関連食品)
- ▶ 大豆たん白 ▶ 豆腐類 など

食用油や食品用・飼料用のミール(油粕)など油脂原料の持つ“植物のチカラ®”を最大限に活かし、毎日の食生活を支えるとともに生活習慣対応食品や介護対応食品など、独自の技術により暮らしの質(QOL)の向上をサポートする商品を開発・販売しています。

—— ホームユース(食用油、ドレッシング) ——



—— 業務用食用油 ——



—— ウェルネス食品 ——



「日清」の由来

日本の「日」と清国(現在の中国)の「清」からとったもの。創業期は東京に本社、中国・大連に支店・工場を設け、大豆を原料とする大豆油・大豆粕の製造加工・貿易を業務としました。

大倉喜八郎、松下久治郎により「日清豆粕製造株式会社」の名称で創立



大倉喜八郎

松下久治郎

日本ではじめてのサラダ油、「日清サラダ油」を発売



1927年頃の「日清サラダ油」と雑誌広告

「横浜磯子工場(現・横浜磯子事業場)」の第一期工事を完了し、操業を開始

1907

1918

1924

1951

1963

社名を「日清製油株式会社」に改め、横浜市にあった松下商店および松下豆粕製造所(旧・横浜神奈川工場)を吸収合併

業界ではじめての食用油のギフトセットを発売



1959年の新聞広告

加工油脂事業

売上高 **823億円**



- ▶ パーム加工品 ▶ チョコレート用油脂
- ▶ マーガリン ▶ ショートニング
- ▶ チョコレート関連製品 など

パーム油をベースとした油脂をはじめ、多様な用途に対応した食用加工油脂を開発・販売しています。日本国内だけでなく、マレーシア・シンガポール・インドネシア・中国などを拠点にグローバルに事業を展開しています。



ファインケミカル事業

売上高 **187億円**



- ▶ 化粧品・トイレタリー原料 ▶ 化学品
- ▶ MCT ▶ レシチン ▶ トコフェロール ▶ 洗剤
- ▶ 殺菌洗浄剤 ▶ 界面活性剤 など

化粧品や食品、医薬品、工業品、化成品分野の機能性素材を開発・販売しています。日本国内だけではなく、スペイン・上海にも拠点を置き、グローバルに事業を展開しています。



ヘルスサイエンス事業

以上の事業活動と並行して、全社の事業横断的に、ヘルスサイエンス事業を展開しています。当社の技術力で開発したウェルネスの提案を通じて、人々のそれぞれのライフ

ステージにおいて必要な「健康とエネルギーを生むチカラ」を提供することで、社会に貢献します。

※売上高構成比は2018年度、これらのほかにその他事業の売上高構成比が1.0%あります。

「日清キャノーラ油」を発売

日清製油株式会社、リノール油脂株式会社、ニッコー製油株式会社の3社が経営統合し、日清オイリオグループ誕生

日清オイリオグループ株式会社、日清オイリオ株式会社、リノール油脂株式会社、ニッコー製油株式会社の4社合併により、「日清オイリオグループ株式会社」誕生

国連グローバル・コンパクトに参加

1980



純植物性マヨネーズタイプ調味料「日清マヨドレ」を発売

1992



「BOSCO オリーブオイル」を発売

1996



特定保健用食品「ヘルシーリセット」を発売

2003

2004

2007

創立100周年を迎える

2011



「日清ヘルシーオフ」を発売

2015

Oillio Value Up! 2020

中期経営計画

2018年度実績

日清オイリオグループは、2017年度に4年間の中期経営計画「Oillio Value Up 2020」をスタートしました。持続的な成長に向けた経営ビジョンのもと、3つのキーワード「グローバルゼーション」「テクノロジー」「マーケティング」を掲げ、全社一丸となって取り組んでいます。

経営ビジョン

- 日清オイリオグループは、110年にわたって培ってきた卓越した油脂に関する技術をもって、お客さまのニーズや課題を解決することで新たな価値を生み出し、市場を創造する。
- 日清オイリオグループは、豊かな食卓の提案、人々の健康への貢献を通じて、企業価値の最大化を目指す。

経営目標

経営目標		2017年度実績	2018年度実績	2020年度目標
事業の収益性	営業利益	91億円	129億円	130億円
経営の効率性	ROE	5.4%	6.6%	7.0%
成長性	EPS(成長率)	204円/株	265円/株	年平均8%の成長 300円/株
キャッシュフローの確保	営業 キャッシュフロー	57億円	207億円	2020年度までの4年間累計 500億円

財務戦略

ROEを重視した資本効率性と財務健全性の最適バランスをとりながら、企業価値の向上を追求します。

- 4年間で500億円の営業キャッシュフローを創出し、成長に向けた投資(設備投資・M&Aなどの事業投資)に振り向けます。
- 配当性向30%程度を基本としながら、安定的な配当を継続します。
- 総還元性向と資本効率性向上を意識し、株価水準などの環境を考慮して、機動的に自社株取得を行います。

2018年度実績(連結)

営業キャッシュフローは、2017年度からの2年間の累計で264億円となり、目標達成に向けて順調に推移しています。また、営業キャッシュフローの実績と今後の見通しに基づき、加工油脂事業やファインケミカル事業を中心とした成長に向けた投資を実行・計画しています。配当性向については30%水準を目安に、2018年度は当初計画から10円増配の80円としました。



基本方針

事業構造改革を継承しつつ、より成長路線に軸足を移す。

成長戦略

- 「健康とエネルギーを生むチカラ」で社会に貢献するヘルスサイエンス事業*をグローバルに拡大
- グローバル化の加速に向けた投資拡大と拠点間の連携強化
- 業務用、加工用領域でのグループの総力を結集した戦略の展開
- ホームユース領域におけるオイリオブランドの一層の強化と新たな市場の創造
- マーケティング強化による新たな付加価値の追求

※ヘルスサイエンス事業：それぞれのライフステージに必要な、当社の技術力で開発したウェルネスの提案を通じ、お客様の健康とエネルギーを提供することにより社会に貢献する事業

基盤強化策

- 製油構造変革・生産基盤強化
- ESG(環境・社会・ガバナンス)を重視した経営の実践



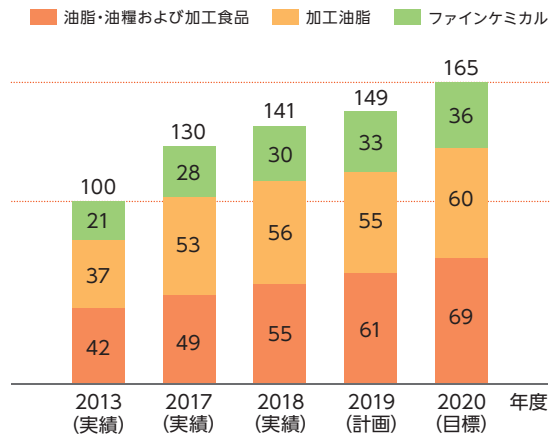
2018年度実績(連結)

2018年度は、油脂・油糧および加工食品事業において、国際的なミールバリューの上昇を背景に搾油採算が改善する中、コストに見合った適正価格での販売や付加価値品の積極的な拡販などにより、連結で過去最高の利益水準となりました。

2019年度も引き続き付加価値カテゴリーの育成を中心とした成長戦略を推進し、2020年度の中期経営計画の経営目標達成に向け、取り組んでいきます。

付加価値カテゴリーの利益*推移

2013年度を100とした場合の実績および計画・目標値



※利益は、売上総利益から直課経費等を差し引いた社内管理利益である売上利益

TOP
MESSAGE

“植物のチカラ®”をベースに
社会に向けて新たな価値を
創造し続けます。



日清オイリオグループ株式会社
代表取締役社長

久野 貴久

日清オイリオグループが担う使命

当社グループは創業以来112年にわたって、「植物のチカラ[®]」を最大限に引き出した油脂を人々の暮らしにお届けしてきました。油脂は人の体に必要な三大栄養素のひとつであり、「おいしさ」、「健康」、そして「美」にいたるまで、生活に欠かすことのできない存在です。植物油を通じて社会に貢献することが当社グループの使命であることは、現在も、そして未来においても変わることはありません。

一方で、油脂に求められる役割は時代とともに変化しており、ここ数年では健康意識の高まりを受け、油脂の価値があらためてクローズアップされています。当社グループでは、「かけるオイル」^{*1}やMCT(中鎖脂肪酸油)^{*2}などについて、使い方や機能に関する情報発信も含めて市場を牽引する取り組みなどにより、健康に関わる付加価値の提供という側面から社会のニーズに答えています。

また市場の拡大を背景に、加工油脂事業では高機能なチョコレート用油脂を、ファインケミカル事業では高品質な化粧品原料をそれぞれB to B向け商品としてグローバルに展開しており、当社グループが担う役割・使命もまたアジアをはじめ世界各国に及んでいます。

私は当社グループの生産拠点を訪れるたびに、「支える力、変える力、生み出す力」を持つことが工場の役割であるという思いを従業員と共有しています。しかしこれは生産部門に限ったものではなく、メーカーである当社グループのすべての活動にいえることだと思っています。当社の技術・開発力で植物資源の可能性を引き出し、お客様が求めるものを、さらにはお客様の潜在的なニーズにお応えする新たな商品・サービスをお届けできるよう、「植物のチカラ[®]」をベースにしたソリューション提案を推進していきます。

※1 かけるオイル

オリーブオイル、ごま油、アマニ油など、さまざまな料理に生でそのままかけて食べる商品です。

詳細はP15の「Pick Up1」で紹介しています。

※2 MCT(中鎖脂肪酸油)

当社グループが長年研究開発に取り組んでいる中鎖脂肪酸100%の油で、近年その認知率は向上しています。栄養面のみならず、運動能力の向上や脳機能の活性化など、MCTが持つ可能性について今後も研究を続けるとともに、適切な情報発信を行っていきます。

MCTの詳細はP41でご紹介しています。

マクロとミクロの視点から市場を捉える

わが国では、少子高齢化による人口減少などが深刻な社会課題となっています。さらに世界に目を向ければ、人口増加による食料需要の拡大、海洋プラスチックゴミなどの環境問題、労働や環境にも関わる持続可能な調達など、解決すべき課題が山積しています。グローバルなビジネスを推し進める当社グループとして、これらの課題を見据え、マクロの視点に立って事業戦略や投資計画を考えていくことが重要です。

その一方で、ミクロの視点に立ったきめ細やかな事業活動も同様に大切であると、私は考えています。たとえばマクロの視点から日本経済を眺めると、人口減少にともなうマーケットの縮小が懸念されていますが、最近の食用油マーケットは「かけるオイル」や中食・外食向け商品に拡大の動きが見られます。そのため、

※3 生活科学研究課

食生活を中心とした社会環境や生活者の価値観の変化、それらに起因する生活習慣の動向等、社会全般の調査研究や情報発信を行っています。詳細はP17の「Pick Up2」でご紹介しています。

※4 ニーズ協働発掘型営業
詳細はP17の「Pick Up1」でご紹介しています。

※5 国連グローバル・コンパクト

当社は2011年に署名しています。2018年度はESG勉強会や新入社員研修などを通じて、従業員に対して国連グローバル・コンパクトの理念の浸透を図りました。

※6 パーム油調達方針

パーム油における取り組みは、P25でご紹介しています。

マクロの視点を意識しすぎるのではなく、日々の商談やお客様とのコミュニケーションから足元の環境変化を捉えることを大切にしています。細部にいたるニーズを掘りおこし、新たな価値提案をすることによって、困難と思える状況もチャンスに変えることができるのです。

これらの状況をふまえ、今後は全体感や平均を捉えるよりも、部分・個別のデータや環境を分析していくことが必要になると考えています。当社では20年以上にわたり生活科学研究課^{※3}が食生活の変化を調査・分析しているほか、B to B分野では取引先であるお客様とともに、個別に最適なソリューションを考えるニーズ協働発掘型営業^{※4}を推進しています。このように、マクロとミクロの両方を視野に入れながら事業活動を大胆に推進していきます。

明確なコミットメントの必要性

最近ではSDGsという言葉も広く知られるようになり、持続可能な社会に向けた取り組みへの関心が高まっています。また企業経営においても、ESGがきわめて重要なキーワードとなっています。

当社グループでは、国連グローバル・コンパクト^{※5}への署名やSDGsへの賛同とともに、現在推進中の中期経営計画において「ESGを重視した経営の実践」を掲げています。また、事業活動におけるグローバル戦略の一翼を担うパーム油については、サプライチェーン全体で環境や人権に配慮する「パーム油調達方針」^{※6}を策定しました。

このような社会との共存・共栄という考え方は、人々の暮らしに深く関わる当社グループとして、創業時からずっと大切にしてきたものです。さらにCSV（共通価値の創造）という考え方についても、これまでの事業を通じて実践に努めてきました。しかしそれを外に向けて発信するという点では、多少の課題を残すと認識しています。今後は当社が持つ思いを確固たるコミットメントとして提示し、その責任をどう果たしていくかに力点を置いていきます。改善を図りながらコミットした目標を達成し、また新たにコミットしていく。この連続した取り組みが、より良い社会、そして当社グループのより良い成長につながっていくものと考えています。

中期経営計画の折り返しに向けて

当社グループは、2017年度に中期経営計画「OilliO Value Up 2020」をスタートしています。これまでの2年間で、国内ホームユース領域、業務用・加工用領域、また各国マーケットのひろがりを受けた加工油脂事業やファインケミカル事業など、数字の面では着実な成果をあげています。一方で、加工油脂事業におけるグローバルサプライチェーンの強化^{※7}や、ヘルスサイエンス事業の拡充など、まだ途中段階にある取り組みもありますが、ゴールである2020年度における経営目標の達成に向けて取り組みを加速させていきます。

従業員は新たな成長に向けて手応えを感じ、意欲を持って仕事に取り組んでいるように思います。女性活躍推進^{※8}をはじめ、従業員がいきいきと働くことのできる環境づくりを継続しながら、グループ丸となってさらなる成長を目指していきます。

新たな成長のストーリーを描く

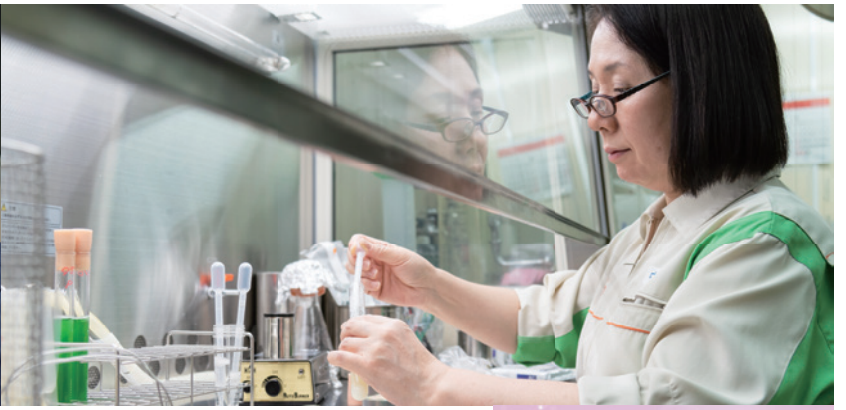
当社グループでは、すべてのステークホルダーの皆様にご約束すべき「コアプロミス」として、「あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続けていくこと」を掲げています。お客様の視点に立ってニーズを発掘していくことは、新たな価値を生み出すための欠かせない第一歩となります。しかし、そこに踏みとどまっているだけでは革新はあり得ません。さらに大切なのは、そのニーズをいかに具現化し、社会に届けていくかということです。2019年度は生産技術分野を拡充するなど、その使命を果たすための組織づくりにも取り組んでいきます。

中期経営計画のスタートから2年。当社グループが将来にわたり成長を続けるために、新たな成長のストーリーを描く段階に入ります。社会との関わりの中でどのように価値を創造していくのかという視点で、当社グループの価値創造ストーリーを描き、グローバルな舞台で存在感のある企業を目指していきます。



※7 グローバル
サプライチェーンの強化
2018年度にイタリアの精製
会社Intercontinental
Specialty Fats (Italy)
S.r.l.を取得したほか、大東
カカオ株式会社とインド
ネシアのサリムグループと
で設立した合併会社PT
Indoagri Daitocacaoが
建設を進めていた業務用
チョコレート工場が完成し、
2019年度より製造を開始
します。

※8 女性活躍推進
2017年度より「女性キャ
リア研修」を実施していま
す。自身の強みの再認識や
上司とのキャリアビジョン
の共有などを通じてキャ
リアを前向きに考えること
で、今後の成長につなげて
います。



— 特集 —

新たな価値を
創造し、お届け
するために





日清オイリオグループでは、“植物のチカラ[®]”というコーポレートステートメントとともに、日々の事業活動で大切にすべきコンセプトとしてコアプロミスを掲げています。このコアプロミスでは、あなたにとってあったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束しています。そのために、原料の調達から商品開発、研究・開発、生産・物流まで、ものづくりのすべてのプロセスを融合させた、さまざまな改革を進めています。

また、コアプロミスは、当社グループの商品・サービスに関わるすべての人々、つまり社会に対して約束しているコンセプトです。日本で、世界で必要とされる企業グループを目指して、そしてさまざまな社会課題・環境課題と向き合い、その解決に寄与できる社会の一員として、日清オイリオグループは新たな価値を創造していきます。

※コアプロミスの全文はP2に掲載しています。



お客様の さまざまなニーズを 具現化する 《商品開発》



想像力を駆使して 一步先をいく商品提案を

近年、生活スタイルの変化にともない、食シーンもまた大きく変化しています。多様化するお客様の

ニーズにお応えするため、商品開発部門では、研究・開発や生産・物流など各部門と密接な連携を図り、当社の技術を商品として具現化し、お客様にお届けするまでの一気通貫した体制を構築しています。

商品開発においては、当社のコアプロミスである、「あなたにとってあったらいいなと思う商品・サービスを創る」という考え方を大切にしています。そのため、顕在的なニーズを商品化するだけでなく、市場の変化を先取りし、お客様自身も気がついていないような潜在的なニーズの発掘に注力しています。その核となるのが、統合型のマーケティング活動です。ホームユースや業務用といった領域別ではなく、最終消費者であるお客様の生活スタイルや食シーンを広い視点で捉え、常識にとらわれずに想像することにより、当社グループが持つ技術や素材を最大限に活かした商品開発を実現しています。

当社は現在、ESGを重視した経営を進めていますが、これまでも、安全で安心な商品の提供はもとより、少子高齢化や人手不足、健康志向といった社会背景を捉えた商品開発を行ってきました。

最近では、油の健康性に関心が集まる中、食卓で手軽にかけてご使用いただくことを想定した「鮮度のオイル」シリーズがご好評をいただいています。こうした社会的な要請にお応えするとともに、原料調達や生産プロセスなどのサプライチェーンにおける人や環境との関わりを大切にした商品をお届けすることで、お客様にご評価いただけると考えています。

今後も、グループ会社をはじめ、同じ志を持つ他社などと連携しながら、お客様へ、そして社会へ価値を提供できる商品開発に取り組んでいきます。



常務執行役員 岡 雅彦

Pick Up 1

おいしく健康な暮らしに “かけるオイル”という提案

昨今、オリーブオイルやアマニ油をはじめ、植物油の健康成分や生で味わう楽しみ方が話題になっています。当社では、食卓で料理にオイルをかけていただくのに最適な「フレッシュキープボトル」や当社独自の製法「酸化ブロック製法」の採用により、新鮮な風味をお楽しみいただける「鮮度のオイル」シリーズを発売しています。テレビCMやレシピなどを通じて、オイルをかけて使う新たな楽しみ方を提案し、おいしく健康的な食生活の実現をサポートしています。



さまざまな料理に手軽に加えることができる“かけるオイル”

Pick Up 2

調理現場の課題を解決する 業務用商品

外食や中食などの調理現場では、労働力不足が深刻な課題となっています。当社では、誰でも均一に、おいしく調理できるフレーバーオイルや炊飯油[※]の開発を通して、これらの課題解決に寄与しています。また、調理現場で働く方々の負荷を軽減するべく、一斗缶に比べて軽量で、油の注ぎ入れなどの作業が容易なピロータイプの容器を使った業務用油をご提案しています。

※炊飯油は、お米を炊く際に添加する油です。味わいや食感を向上させたり、おにぎりなどの加工をしやすいなど、お客様のニーズにあわせたさまざまな機能を持たせることが可能です。



扱いやすいピロータイプの業務用油



“植物のチカラ®”を

最大限に

《研究・開発》



独自の技術力を磨き 「おいしさ・健康・美」を実現

研究・開発の本質的な役割は、付加価値を生み出し、日清オイリオグループの競争

優位性を高めることです。当社では、「安全・安心」「おいしさ」「健康価値」「物性価値」「食品加工価値」を重視し、研究・開発における技術力を磨き上げています。一方で、これらの技術はお客様のニーズとマッチさせてはじめて、“最高の商品”となります。そのため、生活科学研究課での調査・分析にも注力し、次なる研究テーマの探求を続けています。

当社が誇る独自技術のひとつに、酵素を使い特定の機能を持つ油脂を作る技術があります。マレーシアの子会社では、この技術を用いて高品質・高機能なチョコレート用油脂の安定供給を実現しています*1。また食の安全・安心を担ううえでは、分析技術の研鑽が欠かせません。食に関するリスク情報の発信地となるヨーロッパの動向を常時リサーチし、問題視される傾向にあるものは、当社でもいち早く分析に着手しています。油脂を取り巻くグローバルな環境の中で最先端の分析技術を持つことは当社の責任であり、また油脂の基本的価値を守ることにつながると考えています。

当社は100年以上にわたり油脂の研究・開発に取り組んできましたが、この分野にはまだ解明されていないことが無限にあります。最近では、「腸内環境に与える油脂の効果」に関する研究を産学共同で開始しました。これらの基礎研究・栄養研究を極めながらグローバルに油脂業界を牽引し、お客様のニーズや社会課題の解決につながるような独自の研究・開発に挑んでいきます。



執行役員 山内 勝昭

*1 MCTの働きで体に脂肪がつきにくく、エネルギーになりやすい健康オイル「ヘルシーリセット」も酵素技術を駆使して開発した商品です。

Pick Up 1

技術力を活かした提案 ユーザーサポートセンター

2014年度より、お客様の課題解決をサポートする開発拠点として、ユーザーサポートセンターを設置しました。ここでは、消費者やユーザーの潜在ニーズや取引先がまだお気づきでない課題をともに考え、それに応じた商品を開発・提案するニーズ協働発掘型営業を推進しています。中央研究所とも連携し、当社が独自に蓄積してきた技術を駆使してお客様の製品を分析・評価するほか、当社商品を使用して製菓や惣菜などの最終製品までを作成し、具体的な配合や製造方法も含めて提案するなど、最適なソリューションを実現しています。



ユーザーサポートセンターでの
取引先へのプレゼンテーション

Pick Up 2

生活者の変化を捉え、 次なる研究・開発に活かす

当社では1994年に生活科学研究チームを立ち上げ、食生活を中心とした社会環境や生活者の価値観の変化、それらに起因する生活習慣の動向など、社会全般の調査研究や情報発信を行っています。たとえば「常温、暗所保存を前提としている食用油を、約30%の世帯では冷蔵庫に常備している」という調査研究結果からは、現在想定していないレベルの油の耐冷性や冷蔵庫に入れやすい容器の形状など、新たな研究テーマや磨くべき技術が見えてきます。今後も社会や生活者の価値観の変化を的確に捉え、研究・開発に活かしていきます。



生活科学研究課では家庭の冷蔵庫の
定点観測なども実施しています



安全・安心を基盤に 安定供給を 《生産・物流》



安全性と生産性を両立しつつ 環境・社会課題と向き合う

商品を安定的かつ効率良く生産し、
必要な量を必要な場所へお届けする

こと、それが生産・物流の使命です。どのような製造方法を用いれば効率の良い生産が可能か、安定的な供給ができるかなど、生産部門も商品開発段階から関わり、課題解決に取り組んでいます。安全・安心は、生産において最重要の命題です。当社グループではフードディフェンスなどの管理体制を徹底するとともに、いかにして“植物のチカラ[®]”をそのままに、商品を作り込みお届けするかを大切にしています。生産効率をあげる方法は多数ありますが、当社では植物本来の良さを大切にしながら生産装置に独自の改善を加えるなどして、安全性と生産性を両立させています。環境課題についてもいち早く取り組み、省エネやCO₂排出量削減など継続的な活動を進めています。直近では、生産に必要なエネルギーをCO₂負担の少ない天然ガスを燃料とする自家発電でまかなうべく、全国4カ所の生産拠点を連携させて、エネルギーの調達・供給を最適化する仕組みを構築しました^{*1}。また容器における環境負荷低減についても、喫緊で解決しなければならない課題です。より高度なリサイクルの実現にはさまざまな課題をともないますが、資源循環型社会の実現に向け可能性を探っていきます^{*2}。物流面では、労働力不足、環境負荷低減、自然災害時の対応など、さまざまな課題が山積しています。これらの課題解決に向け、国内食品メーカーと連携して新たな物流プラットフォームづくりを進めています。物流戦略を立案できる人材育成なども進めながら、今後も商品の安定供給に向けて取り組んでいきます。



取締役常務執行役員 河原崎 靖

^{*1} エネルギーネットワークの運用については、P22でご報告しています。

^{*2} 容器に関する環境負荷低減については、P22でご報告しています。

Pick Up 1

持続可能な物流を目指して 食品企業物流プラットフォーム を構築

2015年より、当社を含む国内食品メーカー6社で、“F-LINEプロジェクト(食品企業物流プラットフォーム)”の構築を進めています。配送拠点・配送車両の共同利用や、各社の物流情報を一元管理することなどを通して物流業務の効率化を図っており、2016年には北海道で、2019年2月には九州で、共同配送をスタートしています。

また、2019年4月には、F-LINEプロジェクトのうちの5社の出資により、新たな物流会社を発足しました。これからも持続可能な食品物流の構築を目指して、物流諸課題の解決に取り組んでいきます。



輸送効率を高めることで、
環境負荷低減にも取り組んでいます

Pick Up 2

食の安全を守る使命 フードディフェンスの取り組み

食品への異物混入を防ぐフードディフェンスの取り組みを、すべての生産拠点で強化しています。工場全体のセキュリティ対策や、充填工場などの重要エリアへの入退室管理を徹底しているほか、万が一問題が発生した場合にも速やかに状況を確認できるよう、記録カメラでの記録体制を整備。また、健康被害の可能性のある情報は、関連部門および経営層に速やかに伝達する仕組みを構築しています。今後はさらに、本質的な安全を追求するべく、リスクを“防ぐ”だけでなく“発生させない”製造工程の構築や設備設計に取り組んでいきます。



品質管理部門では、
官能検査をはじめ食品安全に関する各種検査を実施

日清オイリオグループのESG

社会的な責任を果たし、すべてのステークホルダーの期待に応えていくことは、
企業の成長そのものに関わる重要な経営課題です。

中期経営計画では、成長戦略を支える重要な施策として、「ESG(環境・社会・ガバナンス)を重視した
経営の実践」を掲げ、環境経営、透明性のある経営、働き方改革などを徹底して進めていきます。

Environment

かけがえのない地球を次の世代に引き
継ぐために、“植物のチカラ[®]”を最大限
に引き出し、環境にやさしい企業活動に
取り組み続けます。



Social

「おいしさ・健康・美」の追求をコアコン
セプトとする創造性、発展性ある事業へ
の飽くなき探求を通じて、社会の発展に
貢献し続けます。

Governance

社会との信頼関係および企業価値を維持・
向上させるため、コーポレート・ガバナンス
の充実、コンプライアンス、リスクマネジ
メントに積極的に取り組んでいます。



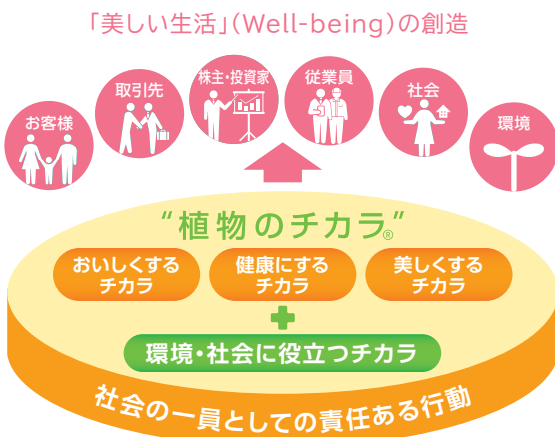
日清オイリオグループのCSR

◆ CSRの取り組みの基本方針

意義
目的

- ◆日清オイリオグループにとってCSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供、環境問題への取り組み、社会貢献、情報開示など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。
- ◆日清オイリオグループにとって、経営理念の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものです。
- ◆日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指します。

◆ 日清オイリオグループのCSRイメージ



※ステークホルダーごとのCSRの方針についてはホームページをご覧ください。
<https://www.nisshin-oillio.com/company/csr/ours>

当社グループは、1907年の創立以来、植物がもつ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を最高の技術によって引き出し、世の中にお届けしてきました。「おいしさ」「健康」「美」。これらの喜びを、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)として、提案・創造していきます。そして、社会や環境の分野においても、“植物のチカラ®”を活用し、世の中に貢献します。

当社グループは、主たるステークホルダーをお客様、取引先、株主・投資家、従業員、社会、環境とし、ステークホルダーごとにCSRの方針を策定しています。

◆ ESGの社内浸透

「ESGを重視した経営の実践」に向けた取り組みを加速させるため、ESGの社内浸透を進めています。2018年は、外部から専門家を招いて役員向けセミナーを開催したほか、本社を含む全国5拠点でESG勉強会を開催し、さまざまな部署・役職の従業員のべ200名以上が参加しました。勉強会では国内外における最近のESGの動向を学んだり、コーポレートレポートを使用したワークショップを行い、一人ひとりが自分の業務とESGとのつながりを考える機会を持ち、自社の取り組みについても理解を深めました。



役員向けセミナー

地球環境保全への 取り組み

環境課題に対して
一歩先行した取り組みを進めています。

◆ エネルギーネットワークの運用開始

当社はJFEエンジニアリング株式会社と協働の取り組みとして、横浜磯子事業場と名古屋工場にコージェネレーションシステムを設置し、発生した蒸気と電力のうちの余剰電力を、堺工場と水島工場に融通するエネルギーネットワークの運用を名古屋工場から開始しました。横浜磯子事業場では2020年の運用開始を予定しています。これにより生産拠点全体で電力を安定的に確保できるようになり、CO₂排出量は2015年度比で約17%削減できる見込みです。



環境負荷の低い液化天然ガス(LNG)を使用(名古屋工場)

◆ 資源循環型社会実現への取り組み

◆ 発売当初の重量と比較した削減割合



当社は資源循環型社会の実現に向け、生産工程でのゼロエミッションの継続や、環境負荷の少ない容器・包装の開発に取り組んできました。昨今の海洋プラスチック問題など地球環境への影響もふまえ、今後未来に向けて、より環境負荷の少ない容器包装の開発を進め、当社に由来するプラスチックが資源として適切に循環されるよう取り組んでいきます。



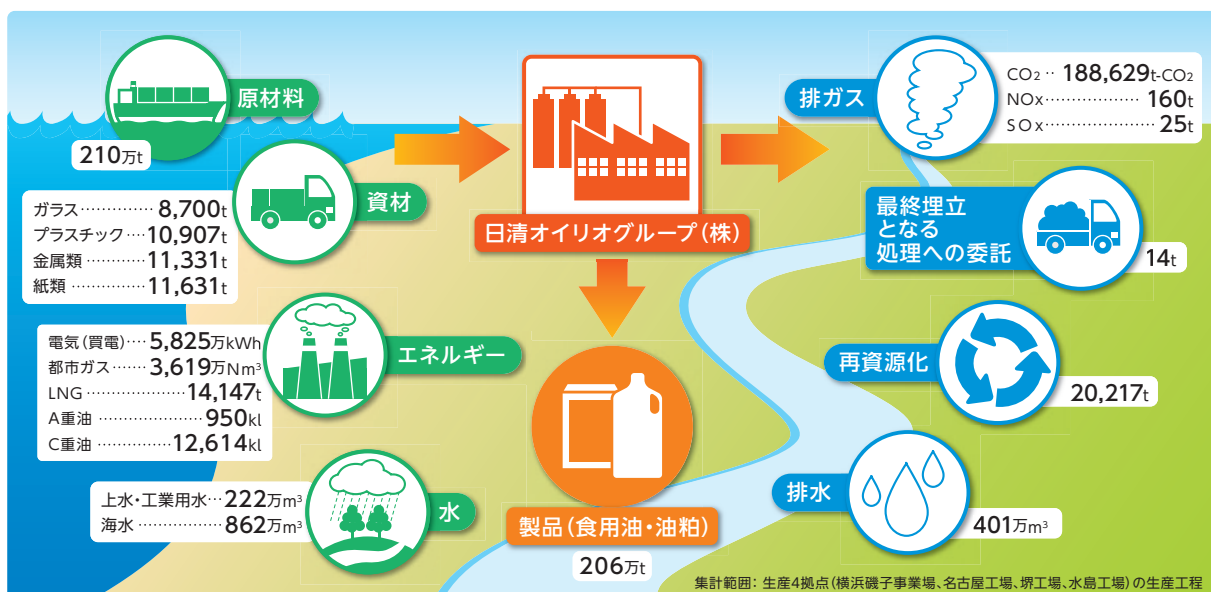
◆環境目標および評価

2020年度を目標年度とした中期環境目標の達成に向けた環境活動を推進しています。2018年度の実績は以下の通りです。なお目標については情勢変化により、見直しを実施する場合があります。

テーマ	中期環境目標	2018年度の実績	評価
低炭素社会	2020年度に以下の目標を達成する(基準年度:1990年) ・生産活動における使用エネルギー量を20%削減、使用エネルギー原単位を15%削減	・使用エネルギー量:0.2%削減 ・使用エネルギー原単位:11.7%削減	▲
	2020年度に以下の目標を達成する(基準年度:1990年) ・生産活動におけるCO ₂ 排出量を25%削減、CO ₂ 排出量原単位を20%削減	・CO ₂ 排出量:6.8%削減 ・CO ₂ 排出量原単位:17.5%削減	▲
	・油脂の輸配送に係るエネルギー使用の原単位を2020年度に、2010年度比10%削減 対象:パッケージ品+バルク油(油粕や生産のための拠点間輸送は除く)	・エネルギー使用原単位:0.2%増加*1	▲
循環型社会	・生産工程でのゼロエミッションの継続	・生産工程での再資源化率:99.93%	●
	・生産活動における用水(上水・工業用水)使用量原単位を2020年度に、2012年度比8%削減	・用水使用量原単位:13.7%削減	●
オフィス関連	・電気使用量原単位を2020年度に、2012年度比8%削減 対象:事務ブロック(本社+8支店)	・電気使用量原単位:14.3%削減	●
	・紙/コピー用紙の使用量削減 対象:事務ブロック	・コピー用紙使用量: 3.2%削減(前年度比)	●
	・紙ゴミの廃棄量削減 対象:事務ブロック(支店除く)	・紙ゴミ廃棄量: 3.7%増加(前年度比)	▲
開発関連	・環境負荷の少ない容器・包装の開発	・外函仕様変更による紙使用量の削減 ・ラベルをはがしやすく、分別しやすいように改善	●
	・化石資源の利用低減、未利用資源の有効活用など	・生産プロセスの改善により 環境負荷の低減に貢献	●

*1 2018年度は自然災害の影響により、輸送モードの代替手段利用といった対策によるエネルギー増加要因があったものの、他社との共同配送の取り組みでエネルギー抑制に努め、全体としては前年度と同水準の結果となりました。

◆資源・エネルギーの流れ(2018年度)



社会課題への取り組み・ 社会貢献活動

お客様の声を大切にした 商品づくりに取り組んでいます。

◆ ドレッシングのキャップを分別可能に変更

2012年から採用しているドレッシングのキャップ「ニュートンキャップ」は、注ぎ口が細く、かける量の調整がしやすいとご好評をいただいています。

さらに、お客様からの「キャップを取り外しやすくしてほしい」との声を受け、キャップをリニューアルしました。キャップ下部の白いつまみをひっぱることで、キャップをボトルから簡単に外せるようにしています。



つまみを引くと簡単に
取り外せます

開発者の声

お客様からいただくさまざまなお声を参考に、日々開発に取り組んでいます。今回のニュートンキャップのリニューアルでは、資材メーカーとともにさまざまな形状を検討し、使い勝手の良さと分別のしやすさを両立した新キャップが完成しました。分別の時に滑りにくいよう、つまみ部分に深めの突起をつけたり、開閉時に「カチッ」という音をさせることで閉め忘れを防止するなどの工夫をしています。より快適にお使いいただければ幸いです。

● 商品戦略部 ホームユース課 高本 奈緒



◆ 商品ラベルをよりはがしやすく改良



改良後の「BOSCO オリーブオイル」ラベル

お客様からの「BOSCO オリーブオイルのラベルをはがしやすくしてほしい」とのお言葉を受け、ラベルを改良しました。お客様のお手元に届くまでははがれず、使用後に簡単にはがせて分別できるよう検討を重ねた結果、はがし始めのきっかけとして糊の粘着力を左の角だけ弱め、ラベルを簡単にはがせる形状としました。

サプライチェーンにおける持続可能な仕組みづくりを推進していきます。

◆ 調達基本方針の制定と周知

当社グループは、事業活動を通じて持続可能な社会を実現・発展させていくためにはサプライチェーン全体としての取り組みが重要という認識のもと、「日清オイリオグループ調達基本方針」を制定しました。この方針は、すべての原材料・サービス等の調達活動の指針となるものです。主要調達先約500社に対して、当社グループの考え方をご説明し、内容についての理解・賛同をいただきました。

日清オイリオグループ調達基本方針

1. コンプライアンス・公正な取引の遵守
2. 品質・安全本位
3. 人権の尊重
4. 環境への配慮
5. 秘密情報・個人情報の保護
6. パートナー関係の強化

※「日清オイリオグループ調達基本方針」の各項目の詳細については、ホームページをご覧ください。
https://www.nisshin-oillio.com/company/csr/sustain/procurement_policy.html

◆ パーム油における取り組み



パーム油の原料となるアブラヤシの実

東南アジアが主産地のパーム油は生産性が高く用途が広い一方、環境・社会面における課題が指摘されています。当社はパーム油産業の健全な発展に貢献するため、2012年からRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟しています。2018年6月には「パーム油調達方針」を制定、同12月に森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ(NDPE※)も含めた内容へと改訂し、持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。

※ No Deforestation, No Peat, No Exploitation

子会社 ISF(マレーシア)の取り組み

社会的要請が高まる中、ISFでは“責任あるパーム油調達”を実現するためのさまざまな取り組みを進めています。持続可能なサプライチェーンの実現に向けてRSPO認証油の調達量を増やすとともに、農園・搾油工場の実査や、勉強会などを通じた取引先への啓発活動を実施しています。またホームページ(<http://isfsb.com/>)で自社の取り組み内容(調達先リスト、トレーサビリティ等)を公開しています。

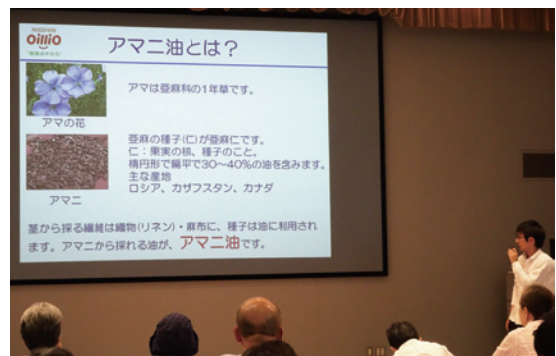


パーム農園の実査の様子

食に関わる企業として、幅広い世代の健康づくりに貢献しています。

◆ 食用油の良さをお伝えする活動

昨今、食用油のさまざまな健康面に注目が集まっています。当社は食用油を長年研究してきた立場から、食用油をおいしく健康に摂取してもらうための知識をお伝えしています。横浜磯子春まつりや全国の証券会社を会場としたオリーブオイルや油全般に関するセミナーを開催するとともに、食用油に関する情報冊子「植物油の美味しいおはなし」を発行し、お客様に配布しています。



アマニ油講座(横浜磯子春まつり)

◆ スマートフォン向け食事記録アプリの開発



当社は東京都健康長寿医療センターと、アプリ「バランス日記 ～10食品群チェック～」を共同開発しました。健康長寿のためには、毎日の食事ですさまざまな種類の食品をまんべんなく食べることが大切です。アプリを通じて、お客様が「10食品群」を意識して食べることを習慣化し、バランスのとれた食生活を送ることを応援していきます。

◆ 食育への取り組み

さまざまな食育活動を通じ、食に興味を持ってもらうきっかけづくりに取り組んでいます。2018年度は地元の旬の野菜の収穫体験や、収穫した野菜を使った調理実習を行う親子向けのイベントを実施しました。子会社のもぎ豆腐店株式会社が主催する離乳食教室では、豆腐を使ったレシピを紹介しながら、参加者の皆さんと一緒に食べることの大切さを考える機会も設けています。



収穫した野菜で天ぷらを調理

よき企業市民として 社会との共生を目指しています。

◆ 北海道北竜町との取り組み

当社は2016年度から、日本最大級のひまわり畑を持つ北海道北竜町と連携し、北竜町産ひまわりを原料としたひまわり油の開発・販売を行ってきました。また、ひまわりの育成・収穫など、ひまわり油製造の過程を北竜町役場や地元の学生の皆さんと体験する農業研修を、北竜町役場とグループ会社の株式会社マーケティングフォースジャパンがスタートさせ、当社も参加しています。



搾油に向けて収穫したひまわりを乾かす

◆ 世界の飢餓撲滅のための国連WFP協会との取り組み



みなとみらいで開催されたチャリティウォーク

当社グループは2005年から、世界の飢餓と貧困の撲滅を使命とする国連WFP協会の活動を支援しています。毎年5月に開催される飢餓撲滅のためのチャリティウォークに10年以上参加しているほか、当社独自の企画として、世界食料デーにあわせたイベント「チャリティランチ」を開催し、期間中のべ500名の従業員が参加しました。

◆ 横浜を中心としたスポーツの応援

当社は主力工場のある横浜市と連携して、さまざまなスポーツの応援や協賛を行っています。

神奈川マラソンや横浜マラソン、世界トライアスロンシリーズ横浜大会などの大会サポートや、横浜DeNAベイスターズや横浜F・マリノスへのスポンサー活動などを通じて、今後も横浜市から全国へ“食と運動の大切さ”を発信していきます。



当社工場をスタート・ゴール地点とする神奈川マラソン

人材の 育成と活用

従業員一人ひとりが
いきいきと働ける会社を目指しています。

◆ 働き方改革の推進

2018年6月から、働き方改革の一環として、自宅あるいは一部事業場で勤務するテレワーク制度とフレックスタイム制度の適用を拡大させました。これにより従業員一人ひとりが今まで以上に柔軟に働く場所と時間を選択できるようになりました。2019年度からは、時間単位有休制度の導入や、外部サテライトオフィス活用などの制度拡充を予定しており、今後もより一層の働き方改革を推進していきます。



自宅でのテレワークの様子

テレワーク利用者の声

通勤することなく自宅で業務ができるテレワークは、仕事と子育ての両立をサポートしてくれる、とても魅力的で心強い制度です。突発的な子どもの発熱や通院の時には、家族の協力を得ながら利用することもあります。職場の皆さんがテレワーク勤務に対して協力的なこともあり、制度をうまく活用しながらより生産性をあげていきたいと考えています。

● 物流統括部 生産・需給管理課 能島 育代



日経Smart Work経営調査で3つ星認定

当社は、働き方改革を通じて生産性革命に挑む先進企業を選定する「第2回日経Smart Work経営調査」において、3つ星に認定されました。

NIKKEI
Smart Work

★★★

2019

◆ 健康経営推進の取り組み

当社は、従業員の健康は本人や家族の幸せの基盤であり、会社が持続的に発展するうえでの大切な財産と位置づけています。2018年度から従業員一人ひとりが「わたしの健康目標宣言」を設定し、目標達成に向けて取り組んでいます。また、3年連続で「健康経営優良法人(ホワイト500)」にも認定されており、今後は働き方改革とも連動させた各種取り組みを強化していきます。



従業員のキャリア形成や能力開発を積極的に支援しています。

◆ グローバル人材の育成

グローバル人材育成のための教育プログラムの拡充を進めています。2018年度は、海外企業の経営陣に具体的なビジネスプランを提案するプロジェクト型研修や洋上研修に、当社従業員が参加しました。また、マレーシア・シンガポール海外視察研修、語学スクーリング補助、語学検定受験支援、オンライン英会話レッスンなど、さまざまな自己研鑽プログラムを提供しています。



プロジェクト型研修の様子

◆ 研修制度の充実

Value Up人事制度の基本理念である「変革に挑戦する逞しい人材」育成のため、階層別、目的別にさまざまな研修を実施しています。現場の要となる従業員がコミュニケーションや問題解決手法を学ぶ「専任職コース研修」を新たに開始したほか、2017年からスタートした「女性キャリア研修」は受講者総数が100名を超え、女性活躍推進の一端を担うプログラムとなっています。



階層別研修の一環として新入社員向け研修を実施

コーポレート・ ガバナンス

日清オイリオグループの マネジメント体制

(2019年6月27日現在)

取締役



代表取締役社長 社長執行役員

久野 貴久

1961年10月29日生

経営執行 内部監査室担当



代表取締役 専務執行役員

尾上 秀俊

1961年2月1日生

財務部、情報企画部、
原料・油糧担当



取締役 専務執行役員

吉田 伸章

1956年12月9日生

食品事業本部長 兼 支店担当



取締役 常務執行役員

小林 新

1961年5月26日生

経営企画室、人事・総務部、
コーポレートコミュニケーション部、
秘書室、ビジネスサポートセンター、
健康経営推進担当



取締役 常務執行役員

河原崎 靖

1958年8月31日生

生産技術開発部長、
生産統括部長 兼 物流統括部、
名古屋工場、堺工場、水島工場、
安全・防災担当



取締役 常務執行役員

岡野 良治

1962年9月6日生

海外事業、
ヘルスサイエンス事業推進室担当



社外取締役

白井 さゆり

1963年1月2日生

[過去経歴]

・日本銀行政策委員会審議委員

[主な兼職状況]

・慶應義塾大学 総合政策学部教授



社外取締役

山本 功

1957年5月2日生

[過去経歴]

・メリルリンチ日本証券投資銀行部門
共同責任者、マネージングディレクター

[主な兼職状況]

・起業投資株式会社 代表取締役

監査役



常勤監査役

藤井 隆

1954年9月27日生



常勤監査役

大場 克仁

1962年3月12日生



社外監査役

町田 恵美

1964年2月7日生

[主な兼職状況]
・公認会計士

社外監査役

草道 倫武

1972年10月18日生

[主な兼職状況]
・弁護士

執行役員

常務執行役員 ファインケミカル事業部長

高柳 利明常務執行役員 食品事業本部副本部長 兼
営業推進部、商品戦略部、海外事業推進部、
ウェルネス食品営業部、通信販売部担当**岡 雅彦**

常務執行役員 東京支店長 兼 RS営業部長

三枝 理人執行役員 知的財産部長 兼
品質保証部、中央研究所、グループ研究開発推進
担当、ISO9001経営者**山内 勝昭**執行役員 日清奧利友(中国)投資有限公司 総経理、
上海日清油脂有限公司 総経理、
中糧日清(大連)有限公司 副総経理**呉 堅**執行役員 加工用事業部長 兼
加工用営業部、加工油脂営業部、大豆蛋白営業部、
ユーザーサポートセンター、バルク油受渡部担当**梨木 宏**

執行役員 加工用事業部長補佐

平澤 壽人

執行役員 大阪支店長 兼 大阪事業場長

斉藤 孝博執行役員 業務用広域営業部長 兼
ユーザーサポートセンター長**寺口 太二**

執行役員 物流統括部長 兼 横浜磯子事業場長

渡辺 信行

執行役員 油糧営業部長 兼 原料部担当

小池 賢二

執行役員 横浜磯子工場長 兼 生産統括部長補佐

佐藤 将祐

基本的な考え方

当社は食の安全を最優先として市場やお客様から高い評価をいただける価値を継続的に提供し、顧客、株主、従業員、社会・環境といったあらゆるステークホルダーから信頼される企業グループであり続けたいと考えています。当社のコーポレート・

ガバナンスに関する基本的な考え方は、この方針に向け実効あるグループ経営体制を整備し、必要な施策を実行していくことであり、当社ではコーポレート・ガバナンスを経営上、最も重要な課題のひとつとして位置づけています。

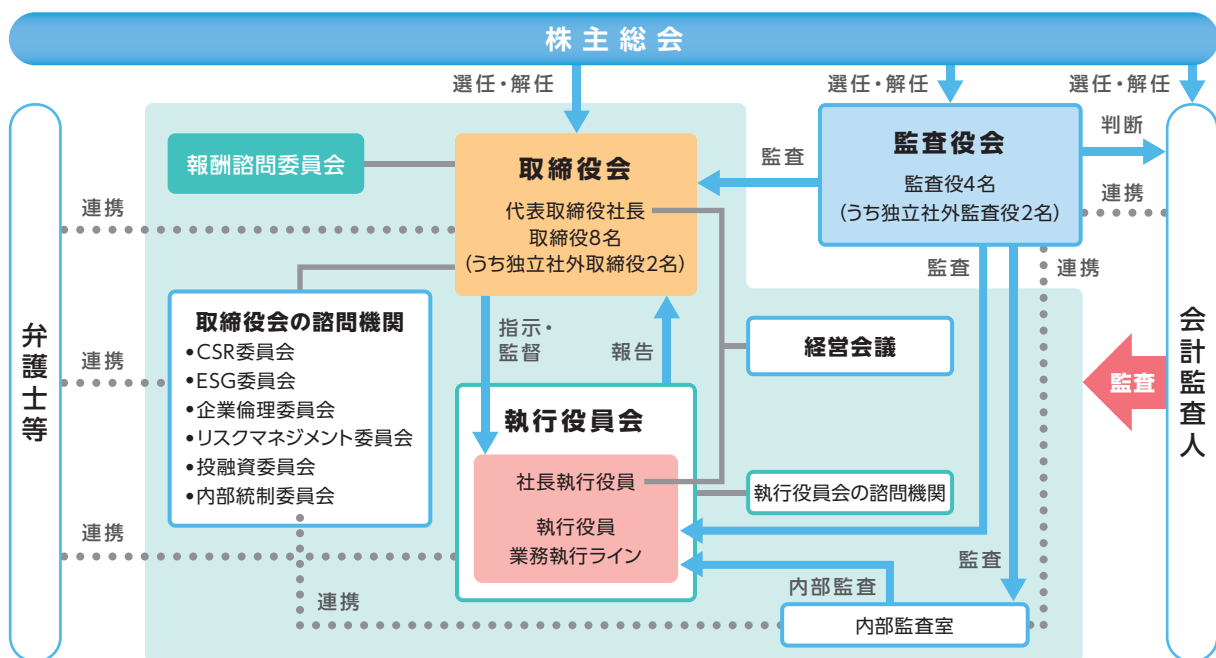
コーポレート・ガバナンス体制

◆コーポレート・ガバナンスの概要

組織形態	監査役会設置会社
取締役会 議長	久野貴久(代表取締役社長)
取締役人数(うち社外取締役) ^{※1}	8名(2名)
監査役人数(うち社外監査役) ^{※1}	4名(2名)
取締役会開催状況(実績:開催回数、取締役・監査役出席率) ^{※2}	開催回数:10回 出席率:取締役96.7%、監査役100%
監査役会開催状況(実績:開催回数、出席率) ^{※2}	開催回数:20回 出席率:100%
取締役の任期	1年
監査法人	有限責任監査法人トーマツ
業績連動報酬制度	あり

※1 2019年6月27日現在 ※2 2018年度実績

◆コーポレート・ガバナンス体制図



※上記以外に常勤監査役とコーポレートスタッフ部門との定期的な情報交換・情報共有化等、監査の実効性確保に向けた会議体を設置しています。

※常勤監査役は、経営会議にオブザーバーとして出席しています。

◆取締役会

取締役会では、法令で定められた事項および経営上の重要事項を審議し、決定しています。当社の経営に関して豊富な経験を持つ取締役と、経営に関する深い知識を持ち、独立性の高い社外取締役により構成され、経営および業務執行の監督責任を負っています。

◆監査役会

監査役会は、監査役4名で構成しており、監査役は、監査役会で策定された監査方針、監査計画および業務分担に基づき、取締役会やその他重要な会議への出席、業務および財産の状況調査等を通じて、取締役の職務執行、執行役員の業務執行を監査しています。監査役は、会計監査人および内部監査室と緊密な連携を保ち、意見および情報の交換を行い、効果的・効率的な監査を実施しています。

◆役員報酬制度

当社の社外取締役を除く取締役の報酬は、役員としての職務遂行意欲の向上とその職務に対する責任を明確化することを主眼とした「基本報酬」、業績連動報酬として「賞与」および中長期のインセン

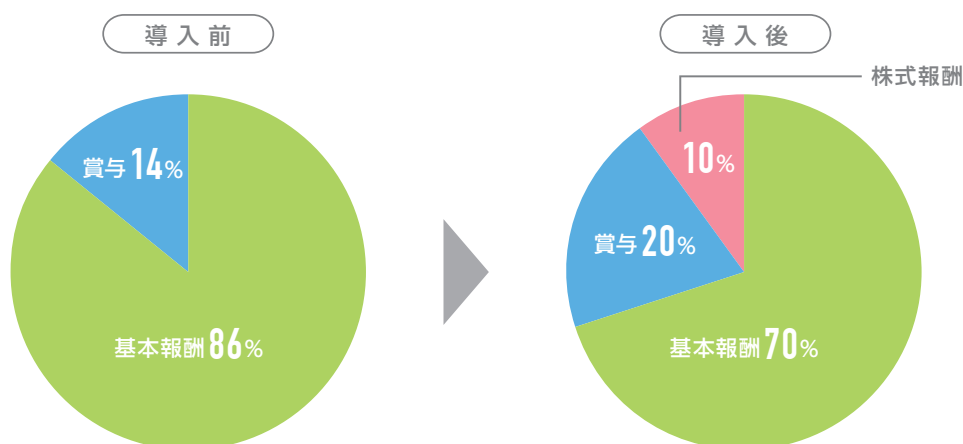
◆執行役員制度

当社は、環境変化に即応した迅速な意思決定を実践するため、執行役員制度を導入しており、執行役員は取締役会から業務執行権限を委譲され、経営計画や取締役会の方針に則り、取締役の監督のもとで業務執行に携わっています。

◆各種委員会の設置

CSR活動を統括するCSR委員会を設置し、ステークホルダーから信頼される企業グループとしての基本方針の立案、中長期の企業価値向上に向けた重要施策の検討を行うとともに、同委員会における方針を実践するため、ESG委員会を設置し、社会の持続可能性への貢献をより事業と密接に関連づけるための取り組みを推進しています。当社グループのコンプライアンス、リスクマネジメント体制については、取締役会の諮問機関としてリスクマネジメント委員会、企業倫理委員会などの委員会を設置し、必要に応じて顧問弁護士などとの連携を図り、専門的な見地から意見を答申しています。

◆役員報酬の内訳(割合) ※下記の割合は、計画通りに業績を達成した場合の比率を示しています。



コンプライアンス

当社グループは、コンプライアンスを単なる法令遵守とは考えず、ビジネス上の倫理、さらには社会倫理の遵守と捉えています。コンプライアンスの浸透に向けた取り組みの拠り所となる「日清オイリオグループ行動規範」は、企業倫理綱領のみならず経営理念実現のための行動指針であり、CSR活動の行動指針とも位置づけています。また、企業倫理、法令遵守に関する内部不正情報等を、社外にも窓口

を設けた企業倫理ホットラインで受け付け、提供された情報を企業倫理委員会で審議し、再発防止を図っています。取締役については、遵守すべきコンプライアンスの基本、違反に対する懲罰などを取締役倫理規程に定めています。そのほか、当社グループのコンプライアンスの状況をモニタリングしフォローアップする、コンプライアンス・プログラムを実施しています。

リスクマネジメント

当社グループのリスクマネジメントの目的は、主体的な取り組みにより企業として安定した収益をあげるだけでなく、企業の社会的責任を果たすとともに、さらなる企業価値の向上と持続的な発展を目指すことです。あらゆるリスクに対して最適な対応策を講じるとともに、リスク発生時において被害を最小限にとどめるべく、迅速かつ最善の対応を図ることを基本方針

としています。リスク管理は、当社および子会社を含めリスクマネジメント委員会が主管となり、リスクが顕在化した場合の緊急体制を整備し、危機対応を図っています。リスクマネジメント委員会ではリスクの棚卸を実施したうえでリスクマップを作成し、重要なリスクに対しては担当部門を特定、各部門はPDCAサイクルによるリスク管理を実施しています。

◆事業等のリスク

当社グループの経営成績、株価および財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクにつきましては、ホームページをご覧ください。
<https://www.nisshin-oillio.com/inv/management/risk.html>

IR活動によるエンゲージメント強化

投資家の皆様に対して適切な情報開示を行うとともに、双方向のコミュニケーションを推進しています。機関投資家・アナリストの皆様を対象に決算説明会を開催しているほか、個別のIRミーティングを実施

しています。個人投資家の皆様向けには、全国の証券会社支店等での会社説明会や、株主様向けの工場見学会を開催しています。あわせて、ホームページでもタイムリーなIR情報を提供しています。

◆IR活動実績(2018年度)

活動	実績	内容
株主様向け工場見学会	1回開催	毎秋、横浜磯子事業場にて株主様向けの工場見学会を開催
アナリスト・機関投資家向け決算説明会	2回開催	中間・期末の年2回、社長・担当役員が出席する決算説明会を開催
アナリスト・機関投資家IRミーティング	51回開催	アナリスト・機関投資家の皆様と随時ミーティングを実施(電話会議を含む)
個人投資家向け説明会	12回開催(527名参加)	全国の証券会社支店等で個人投資家の皆様を対象に会社説明会を開催

第三者意見

日清オイリオグループのホームページ、本コーポレートレポートに加え、横浜磯子事業場の現場視察とヒアリングを実施した結果に基づき、第三者意見を述べさせていただきます。同社の事業経営は、「豊かな食卓の提案、人々の健康への貢献」と長期的に企業価値を高めていくための、中核テーマを明確に定めていることに大きな特徴があります。国内では人口減少が進む一方、国外では健康に対する関心が一際大きくなる中、2017年度から始まった4カ年の中期経営計画「Oillio Value Up 2020」では、健康面の食品価値を追求する事業展開や商品展開を強化することを大きく打ち出しました。前半2年が終了した2018年度のレポートでは、同社の将来に向け事業方向性を捉えることができる内容になっているといえます。

◆ 特に評価できる点としては、

- ◆ 主力商品の「油脂」が果たす健康価値の普及に努めていることです。高まる消費者の健康意識に対応するため、「ヘルシーリセット」や「日清ヘルシーオプ」をいち早く上市しています。また製造工程において、健康面で話題に上がることもあるトランス脂肪酸を抑制するための加工技術を追求している点も高く評価できます。加えて、油が持つポジティブな栄養価値を高めた商品として、オメガ3が豊富なアマニ油や、オリーブオイルを用いた「かけるオイル」や、分解性が高くエネルギー源として優れているMCT（中鎖脂肪酸油）の商品開発を進めてきたことも社会需要に合わせた事業展開といえます。
- ◆ 中期経営計画のテーマの一つ「グローバル化」のために、海外で需要が高まるチョコレート事業強化のため、インドネシアのサリムグループとの合弁会社設立や、グループ企業であるマレーシアISFでの事業拡大は高く評価できます。

◆ 今後に期待する点としては、

- ◆ 原材料の調達では、サステナブルな成長に向けた取り組みとして、主力原料の大豆、菜種、カカオにも広げていき、安定調達に向けた取り組みを進めていくと良いでしょう。また、認証品取り扱いのアクションを自社だけでなく、関連会社やパートナー先にも求めていく必要もあると考えます。
- ◆ 海洋プラスチック対策に向け、プラスチック使用量を削減する試みや、再生プラスチック素材を用いないプラスチックに課税したり、使用を禁止したりする政策、プラスチック素材

株式会社ニューラル 代表取締役CEO 夫馬賢治

サステナビリティ経営コンサルティングの株式会社ニューラルを創業し現職。フォープス、現代ビジネスのオフィシャル・コラムニスト（サステナビリティ・マネジメントやESG投資分野）。日本経済新聞や経済誌からの取材多数。ハーバード大学大学院サステナビリティ専攻在籍。サンダーバード国際経営大学院MBA取得。東京大学教養学部国際関係論専攻卒。



- ◆ 原材料の調達においては、森林保護の観点からパーム油については、2012年にRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟、2018年10月にはパーム油の調達方針に「森林破壊ゼロ・泥炭地開発ゼロ・搾取ゼロ（NDPE）」を盛り込む等、サステナブルな成長に向けた取り組み体制を整えつつあるといえます。
- ◆ 気候変動への対策では、JFEエンジニアリングと協働でコージェネレーション型の電力・蒸気調達システムを整備。温室効果ガス排出量を約17%削減します。また、他の食品メーカー5社とともに共同物流会社F-LINEを設立したことも、気候変動緩和や将来の物流人手不足問題への対応といえます。
- ◆ 搾油事業においては油脂とミール（油粕）を生産していますが、このミールについても飼料用途として販売されており、油脂原料を最大限に活用した事業展開を行っています。

- を生分解性のものに切り替える動きが、世界的に広がっています。主力製品のオイルやドレッシングでの容器・包装の切り替えが今後進むことを期待します。
- ◆ グローバルを意識した事業運営を進めてきている点は高く評価できる一方、海外での環境リスクや人権リスクに対応するためのコーポレート・ガバナンスやリスクマネジメント体制の構築も必要になっていくと考えます。

◆ 第三者意見を受けて

日清オイリオグループ株式会社 コーポレートコミュニケーション部

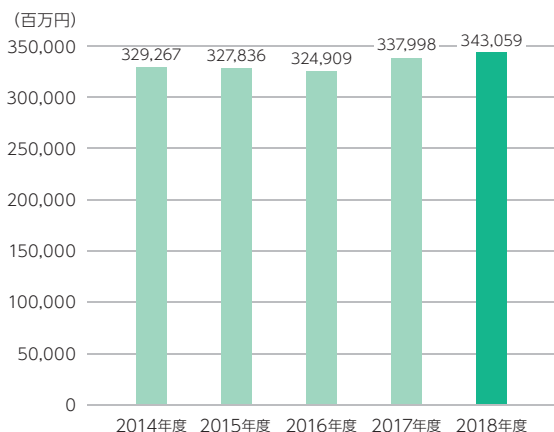
当社グループの活動について、大変貴重なご意見をいただきありがとうございます。当社グループは創業以来、「植物のチカラ。」の可能性を最大限に引き出し、人々の生活をさらに豊かにすることに努めてまいりました。この度、油脂の健康価値の普及に努めている点をご評価いただいたことは、社会へ価値ある商品・サービスをお届けするうえでの大きな励みとなります。

いただきました当社グループに対する期待につきましては、持続可能な社会に向けた取り組みを進めるうえでの貴重なご意見として、真摯に受け止めてまいります。引き続き、ESGを重視した経営を基盤としながら、今後は、社会との関わりの中でさらに価値創造に向けた取り組みを進め、当社グループの使命を果たしていく所存です。

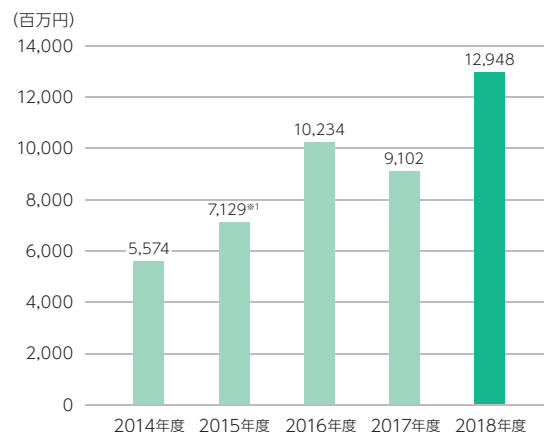
財務データ(連結)

※1 2016年度から会計方針を変更したため、
2015年度については遡及適用後の数値を記載しています。

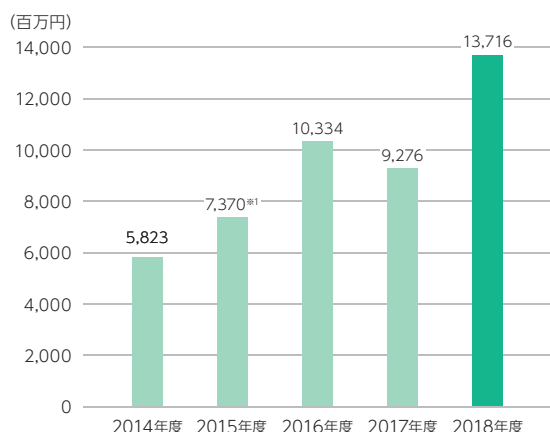
◆ 売上高



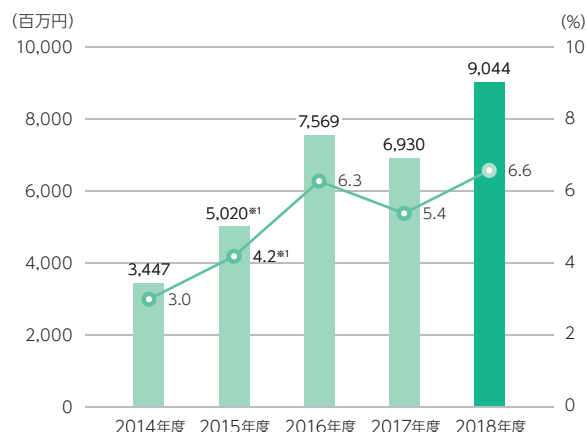
◆ 営業利益



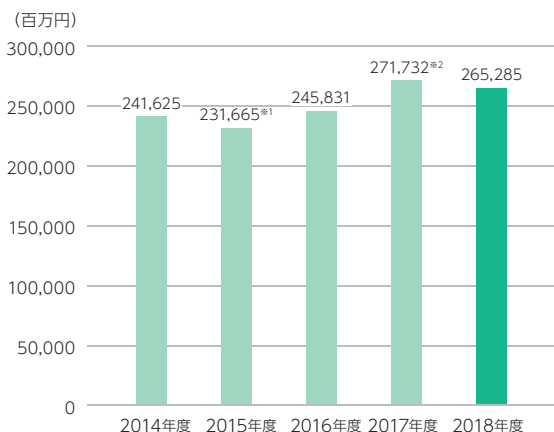
◆ 経常利益



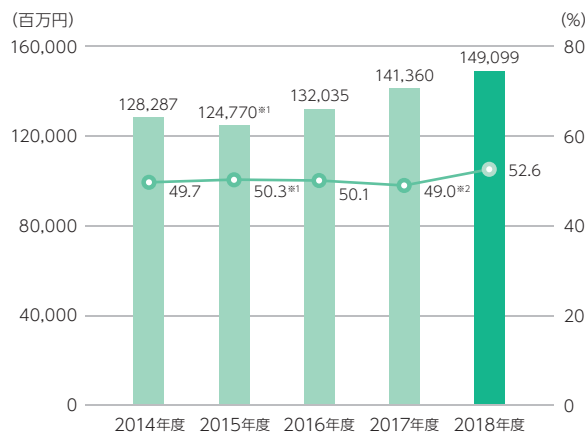
◆ 親会社株主に帰属する当期純利益 / 株主資本利益率(ROE)



◆ 総資産

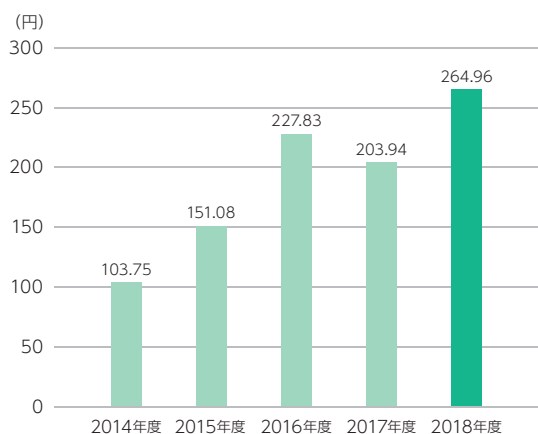


◆ 純資産 / 自己資本比率



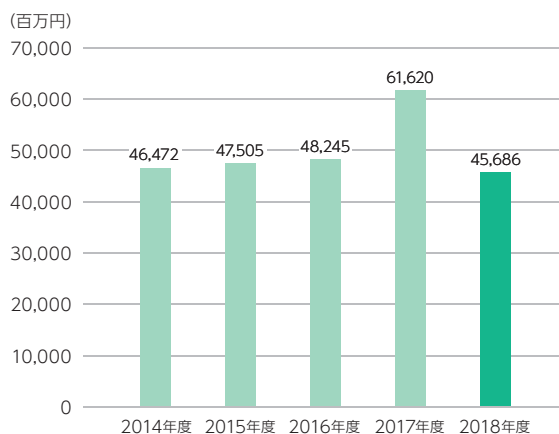
※2 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用にともない、2017年度の数値は、当該会計基準等をさかのぼって適用した後の数値を記載しています。

◆ 1株当たり当期純利益(EPS)※3

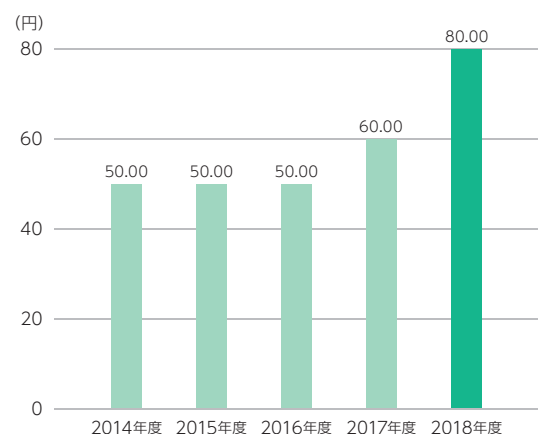


※3 算出の基礎となる株数について、2014年度から2017年度上期は株式併合後に換算して記載しています。

◆ 有利子負債

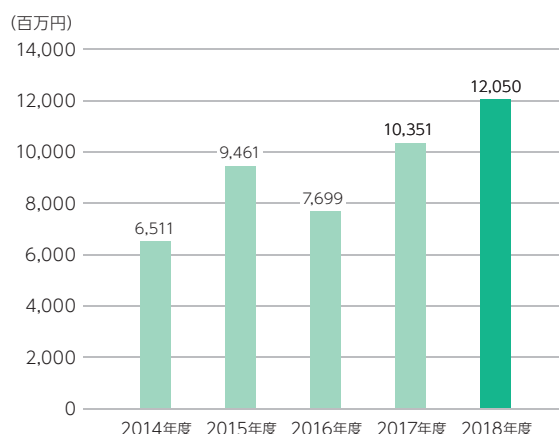


◆ 年間配当金※4

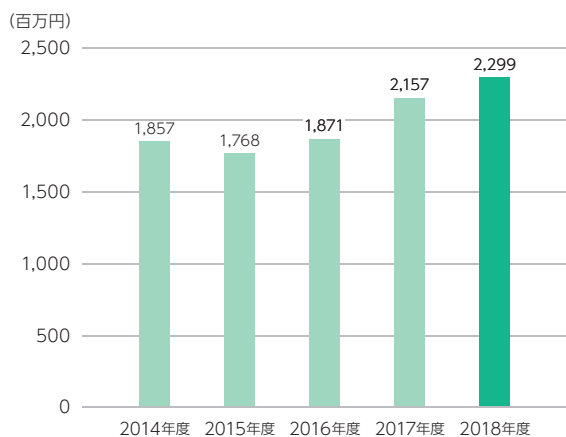


※4 2014年度から2017年度中間配当までの配当金は、株式併合後に換算して記載しています。

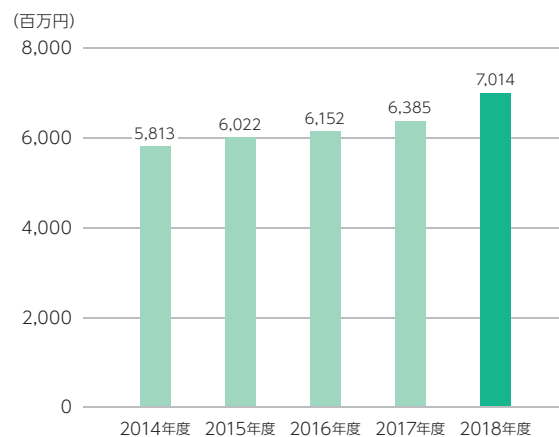
◆ 設備投資額



◆ 研究開発費



◆ 減価償却費



非財務(CSR)データ

お客様

		単位	2016年度	2017年度	2018年度	備考
お客様相談窓口へのお申し出件数	(合計)	件	26,497	20,166	20,539	
	お問い合わせ		25,327	19,045	19,456	ココナッツオイル自主回収(2016年3月実施)専用ダイヤルへのお申し出件数を含む
	ご指摘		592	536	492	
	ご意見・ご要望		578	585	591	

従業員

		単位	2016年度	2017年度	2018年度	備考
グループ従業員	(連結合計)	名	2,731	2,769	2,786	各年度3月31日時点
	日清オイリオグループ(株)		1,093	1,095	1,168	
	国内子会社		936	947	882	
	海外子会社		702	727	736	
従業員に占める女性割合		%	19.4	19.3	19.3	対象:単体正社員、各年度3月31日時点
平均勤続年数	(合計)	年	18.9	19.2	19.3	対象:単体正社員、各年度3月31日時点
	男性		19.1	19.5	19.4	
	女性		17.8	18.2	18.6	
総労働時間		時間	2,013.4	1,990.6	1,968.8	対象:単体正社員
年次有給休暇取得率		%	65.1	63.9	63.4	対象:単体正社員
係長級に占める女性の割合		%	10.8	10.9	11.4	対象:単体正社員、各年度3月31日時点
管理職に占める女性の割合		%	2.2	2.6	3.4	対象:単体正社員、各年度3月31日時点
育児休職制度利用者数		名	28	29	26	対象:単体正社員
介護休職制度利用者数		名	0	1	0	対象:単体正社員
短時間勤務制度利用者数		名	32	39	39	対象:単体正社員
障がい者雇用率		%	2.36	2.28	2.29	

社会

		単位	2016年度	2017年度	2018年度	備考
横浜磯子事業場 工場見学者数	(合計)	名	12,018	10,534	11,489	
	一般消費者		6,378	5,062	4,975	
	学生		4,056	3,652	4,476	
	PTA		669	632	396	
	取引先		798	916	1,403	
	海外		117	272	239	
WFPウォーク・ザ・ワールド ^{※1} 参加人数		名	147	126	95	
チャリティランチ ^{※2} 喫食数		食	395	541	500	
地域での清掃活動等の参加人数 ^{※3}		名	645	590	766	子会社含む
環境保護活動参加人数 ^{※4}		名	87	63	63	

※1 国連WFP協会主催、子どもの飢餓撲滅のためのチャリティウォークイベント

※2 社員食堂でのチャリティ企画

※3 生産拠点の周辺清掃、クリーンウォーキング(大東力カオ(株))等の合計参加人数

※4 海の浄化活動(横浜磯子事業場)、森の保護活動(横浜磯子事業場)、企業の森活動(名古屋工場)の合計参加人数

本ページに記載しているのは実績の一部です。

そのほかの実績はホームページの「CSRデータ集」をご覧ください。<https://www.nisshin-oillio.com/company/csr/report/>

会社概要

日清オイリオグループ株式会社

◆ 会社概要

商号 日清オイリオグループ株式会社
本社 〒104-8285
東京都中央区新川一丁目23番1号
電話 (03)3206-5005
資本金 16,332百万円(2019年3月31日現在)
売上高 343,059百万円(2019年3月期・連結)
従業員数 2,786名(2019年3月31日現在・連結)

◆ 取締役および監査役(2019年6月27日現在)

代表取締役社長	久野 貴久	
代表取締役	尾上 秀俊	
取締役	吉田 伸章	小林 新
	河原崎 靖	岡野 良治
取締役(社外)	白井 さゆり	山本 功
監査役(常勤)	藤井 隆	大場 克仁
監査役(社外)	町田 恵美	草道 倫武

◆ 国内事業所一覧

大阪事業場、横浜磯子事業場(横浜磯子工場)、名古屋工場、堺工場、水島工場、中央研究所、北海道支店、東北支店、関東信越支店、東京支店、中部支店、大阪支店、中国支店、九州支店、盛岡営業所、郡山営業所、新潟営業所、長野営業所、埼玉営業所、横浜営業所、静岡営業所、北陸営業所、四国営業所、岡山営業所、鹿児島営業所、横浜神奈川事業所

◆ 国内生産4拠点



◀ 横浜磯子事業場
敷地面積
約233,100㎡



▶ 名古屋工場
敷地面積
約98,800㎡



◀ 堺工場
敷地面積
約28,800㎡



▶ 水島工場
敷地面積
約110,000㎡

◆ グループ主要会社(国内)

攝津製油株式会社
日清商事株式会社
日清物流株式会社
株式会社NSP
大東カカオ株式会社
株式会社日清商会
株式会社マーケティングフォースジャパン
日清ファイナンス株式会社
株式会社ゴルフジョイ
もぎ豆腐店株式会社
ヤマキウ運輸株式会社
日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社
株式会社ピエトロ
和弘食品株式会社
幸商事株式会社

◆ グループ主要会社(海外)

上海日清油脂有限公司
日清奧利友(中国)投資有限公司
日清奧利友(上海)國際貿易有限公司
Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd.
Industrial Química Lasem, S.A.U.
T.&C. Manufacturing Co., Pte. Ltd.
PT Indoagri Daitocacao
Intercontinental Specialty Fats(Shanghai) Co., Ltd.
Intercontinental Specialty Fats(Italy) S.r.l.
中糧日清(大連)有限公司
統清股份有限公司
張家港統清食品有限公司

※本ページの情報は「取締役および監査役」を除き、2019年3月31日現在のものです。

おいしさと健康の源

植物油

最近、さまざまなメディアでも話題になっている植物油。
「なんだか体に良さそう」「油の種類によって、どんな違いがあるの？」
そんな疑問にお答えします。

オリーブオイル

いろいろな香りと味わいを楽しむことができるオリーブオイル。大きく2つの種類に分けられます。

◆ エクストラバージンオリーブオイル

オリーブの実を搾ったバージンオイル(一番搾り)のうち、酸度が0.8%以下で特に良質なものをいい、オリーブオイル特有の香りが強いものです。ドレッシング、マリネ、パンにつけるなど、生で使う料理に向いています。

◆ オリーブオイル(ピュア)

精製したオリーブオイルとエクストラバージンオリーブオイルをブレンドし、マイルドな風味に仕上げたものです。焼く、炒める、揚げるなど、さまざまな料理に向いています。



オリーブオイルのヘルシー成分

オレイン酸

動脈硬化の原因となるLDL(悪玉)コレステロールをあげにくいといわれています。

オリーブポリフェノール

食事に含まれる中性脂肪の吸収を抑え、血液中の酸化物生成の抑制、動脈硬化の予防効果があるといわれています。



アマニ油は、アマ(flax)というアマ科の一年草の種子アマニからとれる油です。アマは夏に青紫色または白色の小さな花が咲く植物で、実に数個の種子が入っています。熱に弱い性質を持っているので、加熱せずにサラダやヨーグルトにかけたり、飲み物にまぜて食べるのがおすすめです。

アマニ油

アマニ油のヘルシー成分

α -リノレン酸(オメガ3)

血中の中性脂肪を下げる作用、血栓ができるのを防止する作用、高血圧を予防する作用があるといわれています。体内で作ることができない「必須脂肪酸」のひとつです。

MCT

MCT(Medium Chain Triglyceride)は中鎖脂肪酸100%の油のことで、無味無臭で水のようにさらさらした油です。MCTの主成分である中鎖脂肪酸は、ココナッツオイルやパーム核油のほか、母乳にも含まれている成分です。加熱料理には向かないので、サラダやヨーグルトにかけたり、飲み物にまぜて食べるのがおすすめです。

脂肪酸は分子がくさり状につながっていて、その長さによって分類されています。一般的な植物油は長鎖脂肪酸から成り立っていますが、中鎖脂肪酸はくさりの長さが約半分です。そのため長鎖脂肪酸よりもすばやく消化・吸収され、短時間でエネルギーになります。運動する人にとっては効率的なエネルギー源になり、低栄養状態の高齢者には少量で多くのエネルギー補給が可能となります。

くさりの長さが違うから
「中鎖」なんだね！

中鎖脂肪酸のイメージ図

(炭素8個 カプリル酸の例)



長鎖脂肪酸のイメージ図

(炭素16個 パルミチン酸の例)



C : 炭素 O : 酸素 OH : 水酸基

●●● 私たちが大切に考える「3つのバランス」 ●●●

さまざまな健康成分を含む植物油ですが、当社ではお客様の健康のために、「油」のことだけでなく、食事と健康に関する正しい知識をご理解いただいたうえで、油も上手に摂取してほしいと考えています。このような背景のもと、当社では大切に考える「3つのバランス」をお伝えしています。



※詳細は「植物油の美味しいおはなし」をご覧ください。
<https://www.nisshin-oillio.com/oil/pdf/book.pdf>

“3つのバランス”

POINT
1 摂取エネルギーと消費エネルギーのバランスを整える

POINT
2 栄養素のバランスを意識する

POINT
3 自分にあった油を摂取する

手軽に上記のPOINT2の「栄養素のバランスを意識」できるツールとして、食のバランスチェックアプリ「バランス日記」を公開しています。詳しくはP26をご覧ください。

日清オイリオグループ株式会社

〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
お問い合わせ先:コーポレートコミュニケーション部
TEL.03-3206-5109

ホームページ:<https://www.nisshin-oillio.com>
発行:2019年7月



この報告書は、印刷工程で有害な廃液を出さない、水なし印刷方式で印刷しています。
またインキには、揮発性有機化合物を含まない、植物性のNon-VOCインキを使用しています。